



「一丁啮」が行く！

第60回：忘年会

新年を迎えてあちこちで開催された“賀詞交歓会”や“新年会”。皆様は何回くらい行かれましたか？

私の個人的な感じから言うと、“忘年会”より“新年会”の方が多くなってきたように思うのですが、いかがでしょうか？
一説によると、忘年会の回数が増えすぎて、同じ日にいくつも重なったり、体力的にあるいは金銭的にしんどくなったり…と
いうことで、新年会にシフトしている会社や団体が増えてきていると言います。

たしかに近年は、12月中旬以降は日が重なるのでということで、12月初旬にあたり、ひどい場合は11月下旬にあたりと
いうような状況も見受けられるようです。そこで、12月はやめて1月にしようということで、新年会シフトが加速したとか。
特に今年は、1月7日が初出勤の会社も多く、その週に賀詞交歓会や新年会が集中したようです。

ところで、なんで忘年会や新年会をやるのでしょうか。

ネットで調べてみました。サントリーのHPにはこんな記述がありました。（要約）

『ルーツは鎌倉時代もしくは室町時代まで遡る。当時は皇族や貴族の「年忘れ」の意味を込めたもので、お酒は飲んだがメ
イン行事は和歌や俳句を楽しむ厳かなものだった。江戸時代になると、武士は新年会、庶民は忘年会。庶民は一年の憂さを晴
らす年忘れとして酒やつまみを楽しみ、武士は新年に主君へ忠誠を誓う風習があったためと言われている。』

さあ、あなたは庶民派？それとも武士派？

庶民派か武士派かはともかくとして、忘年会や新年会のあり方も近年では変わりつつあるようです。

1970年代～80年代頃は、企業忘年会が一番盛んだった頃です。バブル期にはディスコを貸し切ってやるド派手な忘年会もあ
ったとか。そしてバブルの崩壊と共に忘年会もこじんまりとしたものになり、個性化の進展と共に企業忘年会から親しい知人
やグループでの忘年会へと変わっていきました。1990年代～2000年代には、つつまじやかな忘年会や小人数での個性的な忘
年会が続いてきましたが、近年少し変化が現れてきたようです。個性化の影響で敬遠されてきた会社の行事としての忘年会が
復活してきたのです。その背景には、厳しい時代の中で従業員の一体化を推進したい会社側と、デフレの影響で低価格な居酒
屋が増えてきたことがあるようです。

そのせいかどうか、昨年12月後半の週末の深夜、祇園花見小路や四条河原町付近で、全くタクシーが捕まらない状況が数時
間にわたって続きました。バブル期を彷彿とさせるタクシーの奪い合いなどの光景を、景気回復の兆しであれば嬉しいという
思いで見えていたのは私だけではなかったと思います。

花見小路通や四条通では全くタクシーが捕まらず、東大路を南下して歩き、東山安井の手前で南から上がってくるタクシーを
やっと捕まえて乗って運転手さんに「こんなにタクシーが捕まらなかったら怒るお客もいるやろ？」と聞いたら「いやいや、
皆さん喜んだはります」と。たとえ一過性のこととはいえ景気回復の兆しだけでも感じたいのは誰しも一緒なんですね。

TOPICS

京都産業21主催の「京都ビジネス交流フェア」に出展します！



<https://www.ki21.jp/bp2013/>

京都府と（公財）京都産業21が共催して開催する恒例のビジネス
交流フェアが今年も開催されます。

製造業を中心とする「ものづくり加工技術展」では130社・11
グループが出展いたします。

シスポートも例年出展しており、生産管理ソフトを中心とする展示
を行っています。

両日とも、米田・山口は常駐しておりますので、どうぞお気軽に
お立ち寄り下さい。

と き：2013年（平成25年）2月21日（木）、22日（金） 10:00～17:00

と ころ：京都パルスプラザ（京都府総合見本市会館 京都市伏見区）

地下鉄竹田駅北西4番出口から
【無料】のシャトルタクシーが
ありますのでご利用下さい。

弊社出展ブース No. は **A-64** です

是非、お越し下さい！

Presented by Sys:port corp.

読者 訪問



第37回

お伺いした会社
お話を伺った方
会社の所在地
主な業務内容
連絡先など
URL (HPアドレス)

特定非営利活動法人 京都ほっとはあとセンター
事務局長 芝田 宇佐男 様
〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町 375 番地 ハートピア京都7階
障がいのある人が作られた「ほっとはあと製品」の販売、
障がいのある人の就労支援
TEL: 075-255-0355 FAX: 075-255-0366
<http://www.kyoto-hotheart.jp>

今回は1月18日(金)に京都産業会館きらっ都プラザで開かれた「第4回ほっとはあと EXPO in Kyoto」の会場にお邪魔してお話を伺いました。

京都ほっとはあとセンターさんは、障がいのある人たちの自立や更なる社会参加が図れるように、京都府、京都市をはじめ府内の障害者福祉施設がひとつになって設立した「京都授産振興センター」が前身で、平成18年にNPO法人としての認可を受けた団体です。

障がいがある人が作られた製品は「授産製品」と呼ばれていましたが、これに代わる言葉を全国から募集し「ほっとはあと製品」と名付けられ、それを機に組織名も「京都ほっとはあとセンター」に改称されました。

現在、京都府内162の会員施設で作られた製品を京都駅ビル9階にある「ハートプラザKYOTO」や嵐山の天龍寺前の「ぶらり嵐山」で販売されています。



「ハートプラザKYOTO」店内



「ぶらり嵐山」外観

嵐山で「ほっとはあと製品」を手にとってご覧いただきたく思いますと共に、障がいのある方の社会参加や自立のために、「ほっとはあと製品」の更なる販売普及を願い帰路につきました。



会場のブース前で
芝田事務局長と
職員の松本さん

「ほっとはあと製品」の品質はずいぶん向上してきており、常連のお客をはじめ、全国各地から来られた方、さらには海外からの観光客の皆様が京都のお土産として求めていかれます。現在、注文については一般企業よりも行政からの需要の方が多いそうですが、障がいのある人たちの『自立したい』という願いと期待に応えるために、「ほっとはあと製品」をより多くの方に広めていきたいとおっしゃっています。

業務管理におけるITの活用については、以前は「ハートプラザKYOTO」と「ぶらり嵐山」で別々のレジを使っておられ在庫管理なども連動していなかったのですが、パソコンとレジを組み合わせるネットワークを構築することにより、それぞれの店舗での在庫管理が一元的にできるシステムを当社からご提供させていただきました。

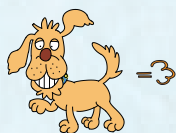
『手作業で課題だった2000近くのアアイテムの店舗毎の在庫管理が実現できて大変喜んでいました。』とおっしゃって下さいました。

そして当社も「ほっとはあと製品」の売上向上に少しでもお役に立てて嬉しく思っています。

読者の皆様も是非一度、京都駅ビル9階の「ハートプラザKYOTO」や天龍寺前の「ぶらり嵐山」で「ほっとはあと製品」を手にとってご覧いただきたく思いますと共に、障がいのある方の社会参加や自立のために、「ほっとはあと製品」の更なる販売普及を願い帰路につきました。

犬も歩けばサポート日記

シーズン2



サポートのシステムはいろいろな業種・業態でお使いいただいております。こんな業種でこんな使い方をされているといった事例をご紹介します、参考にさせていただきたく思っております。

部長：ところで猫山君、今日はテクノ〇〇さんに訪問予定となっているが、こちらもこの間訪問した〇〇製作所さんのような加工業かね？

猫山：いえいえ。テクノ〇〇さんは計測器などを組み立てる、同じ製造業でもいわゆるアセンブリという業態ですね。こちらの場合は部品の手配から全て自社で作って製品に仕上げて納めておられるようです。



部長：ほー、販売管理システム『ぽんぽん』を使ってもらっている、とあるがどんなことをされているのかな？

猫山：メインは部品の発注管理ですね。

部長：でもなんだか手のこんだ修正をしているようじゃないか。

猫山：簡単に言うと受注した製品を所定数作るためにはどれだけの部品が必要か？ それらが現在在庫になっているのか手配しないといけないのか？ 手配先はどこか？ いつまでに手配しないといけないのか？ といった管理をされている訳です。

部長：ところで君、アポは10時と言ってたよね。もう遅刻してるよ。

猫山：あちゃー、納期もアポもちゃんと管理せー！ ってことですね...

部長：『ぽんぽん』には製品ひとつあたりの構成部品および必要数を設定する機能があるよね？

猫山：そのとおりです。当然その機能を使用する訳ですが、商品マスタに登録された個々の部品には想定納期、発注単位、発注先なども設定できるようにしています。

部長：発注単位？

猫山：細かい電気・電子部品が多いですから例えば5台作るのに5個あればいいと言っても、仕入先としては30個単位で注文してくれ、といった条件がつくわけです。

部長：なるほど。そういった情報に現在の在庫状態を加味して発注の必要性まで自動判断するわけだね？

猫山：そうですね。但し部品はいろいろな製品に共通で使うものも含まれていますから、一見在庫は足りていても他の製品で使用する予定になっているかもしれませんし、発注済みでまだ入荷していないものもあります。つまり引当分や未入荷分も絡めて判定しているのです。

部長：ほあ。必要な部品を必要なタイミングで揃えることが出来るわけだ。無駄な在庫が増えるのも避けられるし、一方では部品が一品でも欠ければ製品は作れないのだから大変合理的なシステムだね。

猫山：ま、そんなところですよ。この手配処理から注文書が出て仕入・買掛管理につながっていくわけです。



サポート情報提供機関誌

info

第62号

2013年2月発行

Presented by Sys:port corp.